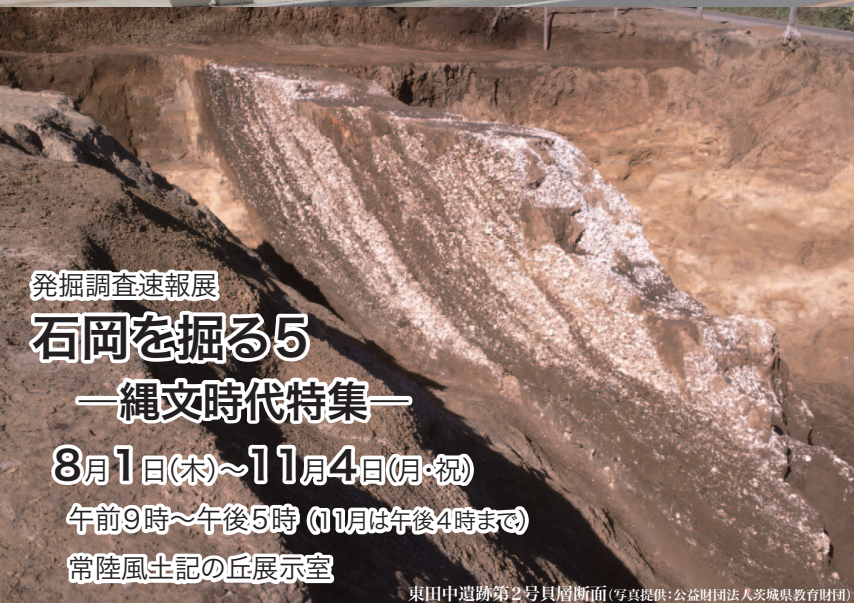


令和元年

8月3日(土) 常陸風土記の丘研修室  
当日先着50人

第5回

# 石岡市文化財調査報告会



発掘調査速報展

## 石岡を掘る5

—縄文時代特集—

8月1日(木)~11月4日(月・祝)

午前9時~午後5時 (11月は午後4時まで)

常陸風土記の丘展示室

東田中遺跡第2号貝層断面(写真提供:公益財団法人茨城県教育財団)

石岡市教育委員会 文化振興課 TEL 0299-43-1111

常陸風土記の丘 〒315-0007 石岡市染谷1646 TEL 0299-23-3888



1. 東田中遺跡
2. 三村地藏窪貝塚
3. 鹿の子遺跡
4. 新池台遺跡
5. 田島遺跡
6. 中島遺跡
7. 北田向遺跡
8. 下ノ宮遺跡
9. 中津川遺跡

### ●例言●

本冊子は、2019(令和元)年8月1日～11月4日を会期として、常陸風土記の丘展示室において開催する「石岡を掘る5」に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課(谷仲俊雄)が行いました。表紙の東田中遺跡第2号貝層断面写真は、公益財団法人茨城県教育財団より提供いただきました。本冊子で使用した地図は、国土地理院数値地図25000から部分転載いたしました。

### ●ご協力・ご助言をいただいた方々●(敬称略)

阿部きよ子 川井正一 川口武彦 作山智彦 萩野谷悟 橋本勝雄  
公益財団法人茨城県教育財団 つくばみらい市立十和小学校

# 東田中遺跡

—いにしえの海辺の暮らし—

一般国道6号千代田石岡バイパス建設工事に伴い、発掘調査が行われています。平成25・26年度に調査された4区では、縄文時代の斜面貝層(貝塚)や遺物包含層が発見されました。

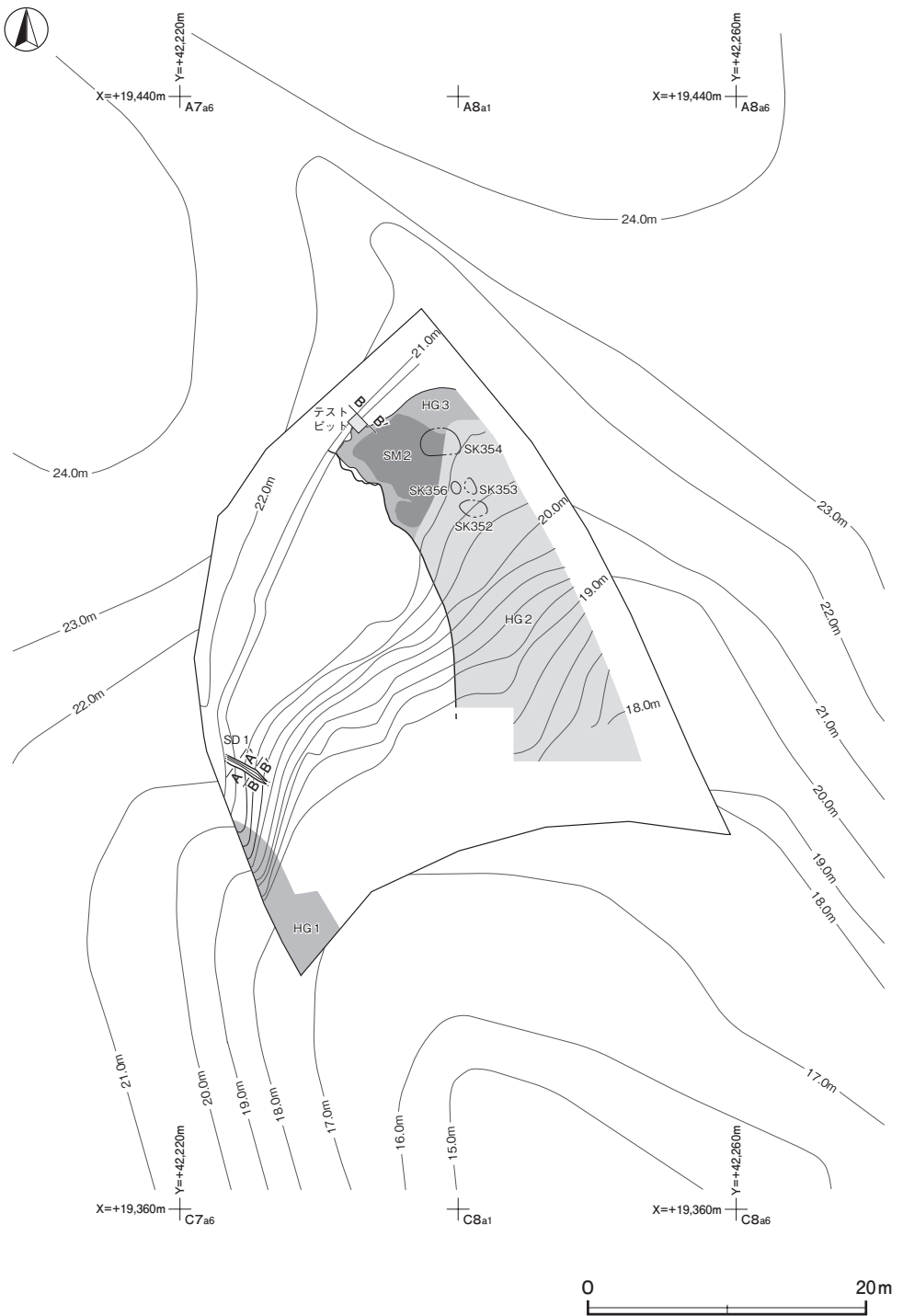


貝塚は、縄文時代中期(約4,500～4,000年前)のもので、厚さは約2m。谷部の窪地を埋めつくすように堆積していました。カキ、ハマグリ、ウミニナ、アカニシなどの貝類のほか、イワシ、クロダイ、ヒラメなどの魚類、シカなどの獣類の骨が出土しており、当時の食生活をうかがうことができます。また、貝類・魚類は主に海水域に生息するものであることから、霞ヶ浦周辺には、縄

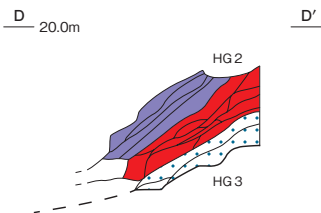
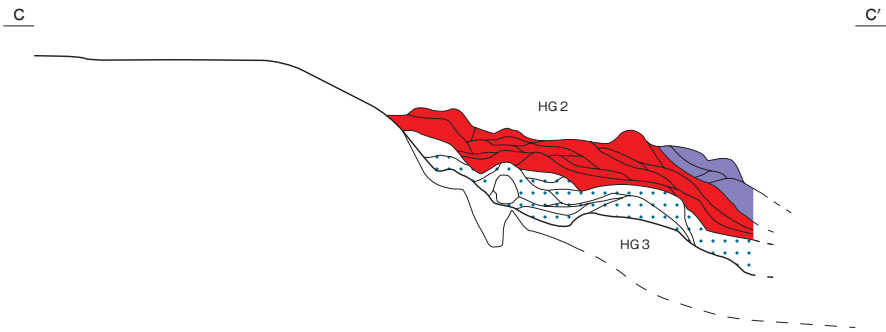
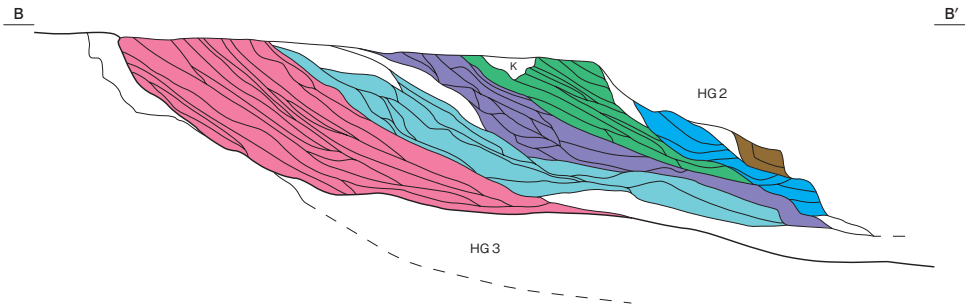
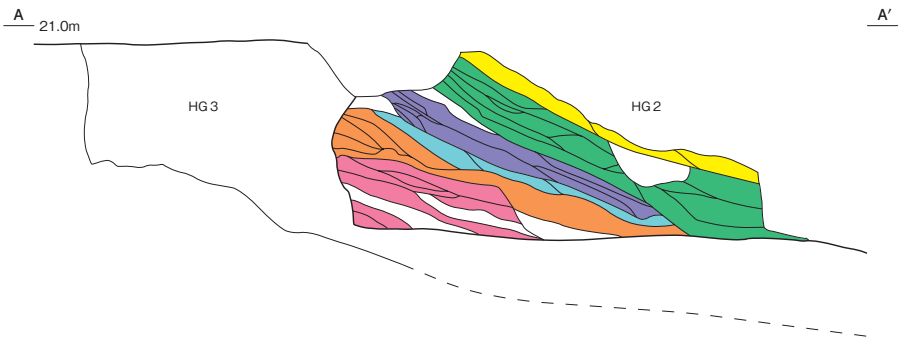


文海進にともなつて入江状の海が広がっており、人々は漁労や狩猟をしながら生活していたことがわかります。

▲貝塚の調査の様子



▲東田中遺跡 4区遺構全体図 (茨城県教育財団文化財調査報告第434集より引用)



▲第2号貝層実測図 (茨城県教育財団文化財調査報告第434集より引用)

# か こ 鹿の子遺跡

—縄文時代の落とし穴—

古代の武器生産工場や漆紙文書の出土で有名な鹿の子遺跡ですが、縄文時代の遺構も確認されています。

平成23年度に個人住宅建設に伴い発掘調査を行ったところ、大きさは1.6m程度ですが、深さが1.7mもある穴を発見しました。穴は、底にいくほど極端に狭くなっていて、身動きができないほど。遺物は出土しませんでした。同じような形態の穴は縄文時代によくみられ、狩猟のための「落とし穴」と考えられています。

落とし穴は3基見つかりましたが、規則的は配置ではないことから、追い込み猟に使用したものとは考えにくいものです。



ろ、凹地周辺に位置していることから、豪雨などによって凹地に溜った水を求めて集まるイノシシやシカなどの通り道（ケモノ道）に仕掛けたものと考えられます。

▲鹿の子遺跡で発見した「落とし穴」



▲鹿の子遺跡の落とし穴の分布

# 新池台遺跡

—縄文時代前期の集落と墓—

昭和56年度に「フローラルシティ南台」建設に伴う発掘調査が行われており、平成22年度には特別養護老人ホーム建設に伴い発掘調査を行いました。

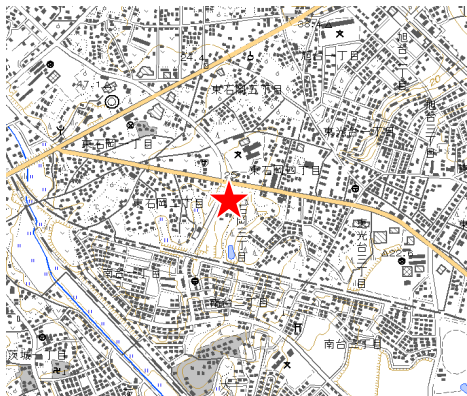
発見されたのは、縄文時代前期ほ こう（約6,000年前）の竪穴住居跡と墓坑群など。竪穴住居跡は51軒も発見され、昭和56年度のものと合わせると70軒余り。茨城県屈指の縄文時代前期の大集落になります。

墓坑には装身具かつ せきが副葬けつ じょうされていました。滑石製の玦状耳飾かつ せき、滑石製の管玉こ はく、琥珀製の丸玉が円を描くように並び、縄文時代



▲耳飾、管玉、丸玉が土器とともに出土

前期前半の土器と一緒に出土しました。複数種類の装身具が出土したという点はもちろん、土器が出土したことによって時期が判明したお墓として、貴重な事例です。

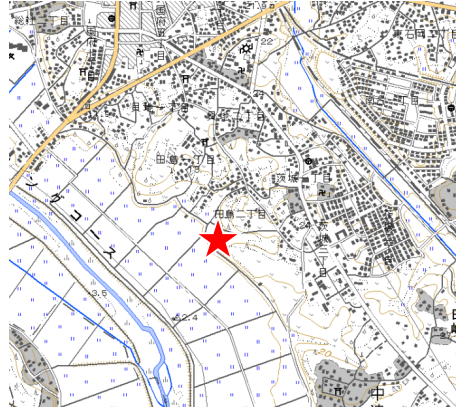




# 田島遺跡

— 縄文時代の石鏃製作跡 —

一般国道6号千代田石岡バイパス建設工事に伴い、平成16～20年に発掘調査が行われました。縄文時代から平安時代にかけての集落跡や、平安時代の水場遺構、中世の火葬施設、古代～近世の水田跡などが確認されています。なかでも縄文時代で注目されるのは、石鏃の製作が行われていたと考えられる住居跡です。



第23号住居跡と名付けられた縄文時代前期(約6,000年前)の住居からは、石鏃のほか、楔形石器や製作過程で剥離した微細な剥片はくへんが出土しています。楔形石器と剥片は、炉をはさんだ中央部北西寄りくさびと南寄りの2ヶ所に集中していました。小形の石



## ▲第25号住居跡の石器・剥片出土の様子

600点近くの石鏃や剥片が出土。隣の第23号住居で製作したゴミを廃棄したのでしょうか(『田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)』茨城県教育財団, 2008年より転載)

材を持ち込んで、素材となる楔形石器をまず作成。それを成形し、石鏃を仕上げていたと考えられます。そして、出来上がった石鏃で、狩猟や漁労に向かったのでしょう。

# 中島遺跡

—副葬された愛用の万能ナイフ—

平成22年度に石岡地方斎場建設に伴い発掘調査を行いました。古墳時代から奈良時代にかけての集落跡や、中世の堀跡を発見しました。縄文時代では、早期から晩期に至るまでの各時期の土器が出土しています。



縄文時代早期(約10,000～6,000年前)では、落とし穴や炉穴を発見しています。炉穴とは、地面に掘った穴の中で火を焚いた跡。住居の中に作られたものではなく、屋外に設けられていました。炉穴の内部は赤く焼けていることから、土器を置いて煮



▲縄文時代早期の炉穴

穴の右奥が赤く焼け、焼土が集中しています。火を焚いたところです。

炊きによる調理や、魚や肉などの燻製くんせいを作っていたと考えられます。

縄文時代前期(約6,000～5,000年前)では、竪穴住居跡ぼこうのほかに墓坑

群を発見しています。

墓坑は、新池台遺跡と同じ頃（約6,000年前）のもの。副葬品は全体的に少ないのですが、石器が副葬されていたものがありました。

石器は、「石匙<sup>いしさじ</sup>」という名前がついている種類のもの。しかし、「匙」といっても、スプーンではなく、ナイフ。先端部付近の両脇にえぐられている部分があり、この部分に

紐をひっかけて携帯した「万能ナイフ」です。埋葬された人の愛用品だったのでしょうか。

また、今回の「石匙」は細長いのが特徴です。このような石匙は、東北地方によくみられるものです。中島遺跡からは、東北地方との関係がうかがえる土器も出土しています。東北地方とゆかりのある人が埋葬されていたのかもしれませんが。



▲お墓に副葬されていた石匙

# 北田向遺跡

—縄文時代前期のムラ—

平成27年度に市道(美野里・八郷線)建設に伴い発掘調査を行ったところ、竪穴住居跡9軒を発見しました。住居跡の時期はいずれも縄文時代前期後半。新池台遺跡や中島遺跡よりも少し新しい時期です。



道路部分だけの調査でしたが、住居のなかに炉があったのは9軒中2軒だけ。見つかっている炉も、焼土が若干確認できただけで、繰り返し使用されたような状況ではありませんでした。住居の床部分も、踏み固められた痕跡はあまりありませんでした。

長期間にわたって定住した集落というよりも、漁労や狩猟、採



集といった食料を獲得するための拠点として作られたムラだったのでしょうか。

▲発掘調査区の全景

# 下ノ宮遺跡

—三村地区の大遺跡—

三村地区に存在する遺跡で、東西1.5km、南北1kmの広範囲にわたっています。農道建設や電波塔建設、防火水槽設置工事に伴い、4回の本格的な発掘調査を行っています。旧石器時代から近世に至るまで、幅広い時期の資料が出土している市内でも有数の大遺跡です。縄文時代を見ても、旧石器時代から縄文時代草創期と考えられる石器や、早期・前期・中期・後期・晩期の各時期の土器、さらには土偶が発見されています。



旧石器時代から縄文時代草創期の石器は、平成15年度の電波塔建設に伴う発掘調査で出土しました。住居跡などは確認できていませんが、「石核」という石器を製作した際に残った原石です。石材は、「ガラス質黒色安山岩」という那珂川流域で採集されるもの。那珂川まで石材を採集に行ったのか、交易によって手に入れたのでしょうか。

縄文時代の竪穴住居跡は、計11軒が発掘されています。そのうち、9軒が前期(約6,000～5,000年前)、2軒が中期(約5,000～4,000年前)です。

前期の住居跡は、新池台遺跡や中島遺跡、北田向遺跡よりも古い前期初頭のもの。北田向遺跡と異なり、ほとんどの住居で炉や柱穴が見つかった



▲縄文時代前期の竪穴住居跡

ています。さらには、炉は中央よりやや南寄りに設置されている、柱穴は建物の軸線を挟んで対応する、というように規則性が認められます。遺物の出土量も多いことから、居住地となる拠点的な集落と考えられます。

中期の住居跡は2軒と、前期に比べると少なくなります。遺跡全体で出土している土器も、前期よりも少なくなっていますので、中期になると集落の中心は違う場所に移ったのでしょうか。



▲縄文時代中期の竪穴住居跡

後期以降の住居跡は発見されていません。しかし、後期や晩期の土器も見つかっていますので下ノ宮遺跡の地は縄文時代を通じて利用されていたことがうかがえます。

# 中津川遺跡

— 縄文時代の大集落 —

一般国道6号千代田石岡バイパス建設工事に伴う調査が断続的に行われており、今年度も進行中です。また、個人住宅建設に伴う調査も行われており、遺跡全体の様相が少しずつわかってきています。



縄文時代前期から近世に至るまで、長期間にわたる土地利用がされていますが、中心となる時期のひとつが縄文時代中期から後期(約5,000～4,000年前)です。この時期は、かんじょう環状集落を取り囲むよう多数の土坑が存在する「環状集落」です。出土遺



## ▲個人住宅に伴う発掘調査(平成24年度)

縄文時代中期の遺構が密集。住宅と浄化槽部分の100㎡余りの調査面積にもかかわらず、収納コンテナ14箱分の遺物が出土した。

物には、土を掘る  
だせいせきふ打製石斧や、土器  
の破片を魚網用の  
すい(おもり)錘として再利用し  
どきへんすいた土器片錘があり  
採集や漁労—豊かな自然が集落の  
繁栄を支えていた  
と考えられます。

文化財調査報告会関連展示・発掘調査速報展

## 石岡を掘る5 縄文時代特集

令和元年8月1日発行

編集 石岡市教育委員会 文化振興課

発行 石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680-1  
常陸風土記の丘

〒315-0007 茨城県石岡市染谷 1646